

## 「かつて」と「なつかしい」がたくさんある鴨池地区

郡元という地名が物語るように、鹿児島郡における重要な地域であったことが想像される地区です。鹿児島三社の1つに位置付けられる一之宮神社周辺のわずかな丘陵は、江戸期には城下から谷山や指宿に至る街道が通り、明治22(1889)年には中郡宇村の役場も置られました。付近を流れる新川(田上川)や地区の南北にのびる海岸線は、人工的な改修や埋め立てによって大きく変化し、開発は地区の在り方に大きく影響を与えました。その開発は近世に限らず、現在に至るまで継続され、公共施設や公共交通、工場や基地、病院など様々な都市機能が設置されました。こうした発展により、鴨池地区に「かつて」と「なつかしい」を漂わせる物語が多く生み出されてきたのです。

### 1. 鴨池地区の「かつて」

鴨池という地名は新しい地名です。江戸期やそれ以前は、郡元や宇宿が地名としてあり、それらの地域を中心として人々の暮らしや政治的な拠点がありました。また、鹿児島城下に近いこともあり、城下と行き来するための街道もありました。

#### ① 谷山街道

現在も旧街道と呼ばれている市電と並行する道路は、江戸期には谷山街道と称され、鹿児島藩の主要街道の1つでした。当時の街道沿いは、現在よりも海岸線に近く、牛掛灘と呼ばれる南鹿児島駅近くの場所は、古戦場でもありました。谷山街道は、笹貫で伊作街道と分かれます。



谷山街道（騎射場付近）

#### ② 鹿児島城下の処刑場（涙橋の由来）

江戸期、鹿児島藩の処刑場と罪人の収容施設が現在の二軒茶屋電停から涙橋電停付近に点在していました。処刑場は紫原台地下の谷にあり、収容施設は新川(田上川)の左岸にありました。涙橋の名の由来は、処刑場に向かう罪人が家族などと別れる場所であったからと伝わります。



処刑場跡

### ③ 元文の板碑

路面電車やＪＲ線路を渡る歩道橋横にある石塔で、「お医師様」とも呼ばれています。石塔が建立されたのは元文２（1737）年のことで、無実の罪で処刑された医師の供養のためとされています。石塔には梵字が刻まれるなど立派です。



元文の板碑

### ④ 二軒茶屋の地名

二軒茶屋の電停付近は、かつての谷山街道の沿道でした。名前の通り二軒の茶屋がありました。二軒の茶屋の名物はちゃんぼ餅であったといひます。大正時代には二軒の茶屋は住吉家と小斉平家が経営するようになり、街道を行き来する馬車の休憩地でもありました。



二軒茶屋電停

### ⑤ 一之宮神社

鹿児島三社の一社とされ、主祭神は<sup>おおひるめむちのみこと</sup>大目靈貴命（天照皇大神）で猿田彦命や天智天皇も祭られています。薩摩国一之宮である枚聞神社の末社としても位置づけられます。１月３日は打植祭という田植の行事が行われ、神社の社領としての神田があったことが理解できます。境内には大永５（1525）年の銘のある板碑（県指定文化財）や、弥生時代の住居跡（県指定文化財）もあります。別当寺は延命院で、社殿裏に石塔などが残されています。



一之宮神社の打植祭

### ⑥ 茶屋馬場（脇田）

現在の脇田電停付近は、かつての谷山街道と伊作街道の分岐点であったことから、この地にも茶屋があったとされています。そのことを示すように茶屋馬場の小字が現在まで伝わります。茶屋馬場には、初代藩主・家久が谷山の慈眼寺に参詣する際に立ち寄ったとされています。

## 2. かつて「中村」がありました

鴨池という地名が近代には頻繁に認識されるようになります。そのきっかけとなったのが「鴨池動物園」の開業です。もともとは中村に設置された公園です。園内にあった鴨が集まる池から鴨池が公園名となり、電停にも鴨池が採用されることによって、この地は中村ではなく鴨池として認識されるようになっていきました。戦後は鴨池小、中学校の開設や鴨池空港の開港によって、さらに鴨池は拡大し、中村という地名は失われてしまいました。

### ① 新川の河川改修

現在の新川はかつて田上川または境川と呼ばれていました。文化3（1806）年に当時の9代藩主・斉宣は、流路を変更して水田地帯の拡大を図りました。そのために新川という名称になり、河口も大きく変わりました。



新川（墓地入口橋付近）

### ② 中村小学校の碑

近年まで営業していた中村温泉の敷地に石碑があり、現在の中郡小学校の前身と中村小学校があったことを伝えています。明治12(1879)年に創立、その時には郡元小学校も創立されています。両校が合併したのは明治17(1884)年で、その際に共進小学校となりました。明治44(1911)年に中郡小学校の名称になり現在に至ります。



中村小学校の碑

### ③ 中村公園

現在の町名は鴨池一丁目などで、かつてあった中村の地名は失われてしまいました。現在、中村の地名を伝えてくれるのは地域にある「中村公園」のみです。



中村公園

### ④ 紅ガラス製造所跡

嘉永4（1851）年、11代藩主・斉彬は紅ガラス製造のための工場をつくりました。中村には薬の研究のための製薬館が先代の斉興の時代から置かれ、薬瓶などの製造を行っていました。紅ガラス工場は安政3（1856）年



紅ガラス製造所跡

に集成館に移されました。鴨池福祉館に記念碑が建立されています。

#### ⑤ 鹿児島高等農林学校跡

明治 41（1908）年に設立された日本で二番目の高等農林学校です。初代校長には、鹿児島出身の玉利喜造氏が就任しました。現在の鹿児島大学農学部的前身となり、敷地も鹿児島大学郡元キャンパスにあたります。キャンパス内には高等農林時代の遺構も点在し、玉利校長に由来する玉利池や胸像、田の神などがあります。鹿児島高等農林学校の卒業生によって植樹されたソテツも大学正門前にあります。



玉利喜造胸像

#### ⑥ 鹿児島県農事試験場跡

明治 33（1900）年、現在の知事公舎の場所に開設されました。その後、大正 11（1922）年に現在の鹿児島大学教育学部キャンパスに移転。戦後の一時期はその地で運営されますが、昭和 26（1951）年には谷山へ移転しました。最初に開設された知事公舎前に記念碑が建立されています。



鹿児島農事試験場跡

### 3. かつて「宇宿村」がありました

宇宿は、古くからある地名です。そのために現在の宇宿小学校区には、様々な文化財が点在していますが、近年の区画整理や道路拡張によって、田園地帯としての趣があった宇宿も様変わりしました。

#### ① 福昌寺の寺領

旧記雑録によると応永 6（1399）年に島津氏 7 代当主・元久は、菩提寺である福昌寺のために宇宿村を寺領と定めて寄進しました。その後も福昌寺と宇宿村の関係は継続され、新田開発も行われてきました。



## ② 蔵六軒

鹿児島藩を代表する寺院であり島津氏の菩提寺・福昌寺の末寺であった蔵六軒でしたが、現在は廃寺となっています。現在の蔵六軒墓地の場所にあり、かつては目印となる大イチョウがありました。この地域は「寺んはなぼ」（寺の先の墓）と呼ばれています。墓地内には頭部のない仏像などがあります。



蔵六軒

## ⑦ 妙見神社

かつての宇宿村の村社であり、御祭神は天<sup>あめのみなかぬしのかみ</sup>御中主神（天之御中主神）です。この地が福昌寺の寺領となった際に、当社に島津氏7代当主・元久から神領が献上されたといい、創建に島津元久が深く関わっていることとなります。神社には仁王像や境の神である塞<sup>さい</sup>の神が安置されています。



妙見神社

## ⑧ 中の田の神

現在は脇田公園の片隅に移設されていますが、脇田はその名前の通り、昭和中期頃までは田園が広がっていました。中地区にも田の神が安置されていましたが、建立年代は不明です。公園に移設される前はコンクリートで半分埋没した状態であったといいます。



中の田の神

## 4. かつて「中郡宇村」がありました

明治22(1889)年から昭和9(1934)年まであったのが中郡宇村です。中村と郡元村と宇宿村が合併し、その頭文字から村名がつけられました。村役場は現在の一之宮神社の隣接地に置かれていました。昭和9(1934)年には西武田村や吉野村と一緒に鹿児島市に合併しました。

### ① 村の青年倶楽部（郡元公民館）

昭和 7 (1932) 年に村の青年たちが集う施設として誕生した建物は、現在郡元町の公民館として利用されています。外観からも戦前の建築であることが分かる造りをしていて、内部には舞台や映写室の跡などが残されています。建物前には地域の耕地整理や道路開設に尽力した末吉市之進村長の頌徳記念碑があります。



郡元公民館

### ② 市合併記念碑

明治 22 (1889) 年から昭和 9 (1934) 年まで中郡宇村はありました。村役場は現在の一之宮神社附近にあり、鹿児島市への編入を記念した碑が神社入り口に建立されています。中郡宇村には大日本紡績という大工場もあり、大きく発展しました。



市合併記念碑

## 5. かつて「鹿児島海軍航空隊」がありました

昭和 7 (1932) 年に鹿児島市営の水陸両用飛行場として計画工事され、その後、海軍が中継補給用の飛行場として整備しました。さらに昭和 15 (1940) 年から、海軍予科練習生の教育施設としてパイロットの養成が始まりました。



貴様と俺の碑



鹿児島海軍航空隊之碑

しかし、戦争の激化に伴い作戦基地になり、昭和 20 (1945) 年 3 月には空襲により大きな被害を受け、次第に機能が失われ終戦を迎えました。

当時の痕跡としては鴨池小学校に航空隊があったことを示す記念碑があります。また亡くなった隊員の鎮魂のための碑も鴨池緑地公園と勤労婦人センター横に建立されています。「貴様と俺」は戦時中流行した軍歌「同期の桜」の歌詞に「貴様と俺とは同期の桜」と歌われたように同期生を表す言葉です。海軍用栈橋の一部も新栄町に残されています。

## 6. かつて「塩田」がありました

甲突川下流域は生活圏に近いこともあり、遠浅の海岸を利用して江戸期には塩作りが行われました。

### ①与次郎ヶ浜

天保 14（1843）年から赤穂の塩づくりを学んだ平田与次郎が、塩田を拡大させたのが、現在の与次郎ヶ浜一帯です。国道沿いにひっそりと記念碑が建立されています。



与次郎ヶ浜の碑

### ②<sup>こでん</sup>古田ヶ浜

現在は公園の名称だけが、この地名を伝えます。この地にも塩田がありました。海岸に近いこともあり、塩づくりが盛んでした。



古田ヶ浜公園

## 7. 鴨池地区の「なつかしい」

もともと鴨池という地名はありませんでしたが、鴨池動物園や鴨池電停ができたことから、中村であった地域は「鴨池」として認識されるようになりました。また鴨池は動物公園や運動公園など、他地域から多くの人々が目的をもって訪れる場所であり、思い出のつまった地域になりました。

### ①鴨池（地名由来の池）

鴨池動物園は、かつての黒木島津家別邸にあった池を利用して整備されました。別邸の池には鴨が飛来し、最後の藩主である島津忠義は、猟をして楽しんでいましたといえます。その猟は手綱式と呼ばれる独特の手法であり、忠義はここで家鴨も飼育していたといえます。そのことから鴨池として認識されるようになり、動物園の園名にも採用されました。

## ②鴨池動物園跡地

大正 5(1916)年に路面電車を運営する鹿児島電気軌道株式会社が、乗降客数の向上のために沿線に動物園を誕生させたのが始まりです。動物園は少しずつ整備され、大正 15(1926)年には園内に大庭園も完成しました。



鴨池動物園跡地（園柵）



鴨池動物園跡地

昭和 3 (1928)年には民営から鹿児島市営に移管され、目玉となる象も寄贈されました。戦後になると動物園も活況を呈するようになり、昭和 25(1950)年には戦後最初の大博覧会である九州ステートフェアの会場にもなりました。昭和 47(1972)年には動物園が平川に移転することになり、鴨池から離れます。動物園があったことを示すものとしては鴨池児童公園に園柵が残されていたり、その後跡地に建てられた大型商業施設の片隅に動物のブロンズ像が数体置かれたりしていました。

## ③ 正一位稲荷神社（境内に移設されている仏像や手水鉢など）

創建年代は不明ですが、稲荷神を御祭神とする神社が現在の鴨池川沿いにあります。昭和 40(1965)年までは鴨池公園内にありましたが、その後、公園の改修や国道 225 号の改修によっ



鹿児島電気軌道(株)の奉納手水鉢



石仏

て現在地に移設されました。境内にある石仏や手水鉢などは移設以前からあったものと考えられます。

路面電車を初めて鹿児島市街地に営業した鹿児島電気軌道株式会社が奉納した手水鉢もあります。また、中郡宇村の漁協が建立した石祠も境内の鴨池川沿いに安置されています。

## ④ 鴨池寺

昭和 13(1938)年に鴨池川沿いの民家で開教された浄土真宗の寺院です。地域では「鴨池寺」とも呼ばれていました。その後、中郡宇村の村長もしていた末吉



市之進らの尽力によって、現在の西本願寺鴨池出張所として昭和 36(1961)年に現在地に移転し、本堂などが完成しました。

## 8. なつかしい鴨池海岸・天保山海岸

戦後になってからの市街地拡大による埋め立て以前には、天保山から鴨池にかけての海岸沿いは遠浅を利用した海水浴場としての賑わいがありました。鹿兒島市街地近郊ということもあって、多くの方々が海水浴を楽しんでいました。現在でも天保山や鴨池には当時の面影を伝えてくれる松並木が残されています。また、鴨池海水浴場では昭和 40 年代まで納涼花火大会も開催されていました。

### ① 海濱院跡

明治 38 (1905) 年、加藤好照医師が、結核患者のために療養施設として設置したのが海濱院です。当時は海岸沿いの風光明媚な場所であり、病気の治癒に適した場所でした。昭和 14 (1939) 年に施設は平川に移転します。立派な記念碑だけが当時を偲ばせてくれます。



海濱院跡

### ② 鴨池川

現在は暗渠となり道路などでほとんどが隠れていますが、鴨池川は国道 225 号の市営プール近くから鴨池運動公園方面へと顔を出します。理由はわかりませんが、地域では「うどん川」とも呼ばれていたようです。与次郎ヶ浜の埋め立て工事によって流路は大きく変更しましたが、今でも確認することができます。



鴨池川

### ③ 鶴ヶ崎の地形

新川は文化 3 (1806) 年に流路を人工的に改修したため、河口も変化しました。現在の三和町付近が河口となり、上流からの堆積物によって河口付近に砂州状地形が発達しました。その形状が鶴のくちばしのように見えることから鶴ヶ崎と呼ばれるようになりました。

#### ④ 点在する温泉

独特の地形を有する鶴ヶ崎の海岸付近では温泉が湧出します。自然ではなく掘削によって湧出しており、昭和7（1932）年の掘削工事で湯量豊富な湧出に成功しました。鶴ヶ崎温泉と称され、一軒の旅館が営業していました。戦後には周辺環境も大きく変化し、当時の温泉はなくなりました。

#### ⑤ 騎射場の地名

騎射場といえば、現在は騎射場電停がある付近が想像されますが、元来の騎射場はもう少し海岸沿いとされていました。現在は高層マンションやスポーツ施設・鴨池ドームがある辺りが騎射場でした。当時は海岸付近であって、名前の通り武士が馬術訓練を行っていたようです。

#### ⑥ 脇田浜

現在は埋め立てられ道路や商業地、住宅地などになっている脇田川の河口周辺には砂浜が広がっていました。かつては地域の人々の海水浴の場所になっていました。

### 9. なつかしい鴨池空港

昭和32(1957)年にかつての鹿児島海軍航空隊の施設を利用して鴨池空港が営業を開始しました。日本の南端に位置する鹿児島県の玄関口として利用者を伸ばし、それに合わせて滑走路の延伸も行ってきましたが、飛行機のジェット化に伴い騒音や安全性の課題が浮上しました。そのために昭和47（1972）年に溝辺町（現在の霧島市）に移転することになり、閉港しました。

#### ① スカイマーケットの名前や展示写真

かつて鴨池空港のターミナルがあった場所は、スーパーマーケットになっています。店舗は、空港跡地であることを伝えるように「スカイマーケット」の名称が採用されています。また店舗内には当時の空港の様子を伝える写真パネルが展示されています。



鴨池空港の格納庫は  
2008年までバス会社の車庫として  
利用されていた（2007年撮影）

## ② 真砂本町や鴨池新町の区割

広大な面積を有する空港跡地は再開発され、住宅や商業地、道路などに変貌しました。当時滑走路だった場所は、高層住宅が立ち並び、その並びからかつての滑走路跡をたどることができます。また空港周辺の区割りも、空港があった当時を伝えてくれます。



鴨池空港跡地

## 10. なつかしい与次郎ヶ浜

昭和 40(1965)年から鹿児島開発事業団によって埋め立て工事が開始しました。昭和 47(1972)年に開催される鹿児島国体に向けた運動公園や観光施設整備に向けてのもので、城山団地造成のための残土を水搬工法によって、与次郎ヶ浜まで送る画期的な手法が採用されました。こうした観光や行楽目的の埋め立て地には、市民が楽しめるマリンパークやジャングルパーク、熱帯植物園が設置されましたが、時代とともにそれらも閉鎖され、跡地は商業施設などに変化しています。

### ① 二重護岸

与次郎ヶ浜の埋め立て工事の際、護岸からの桜島の眺望は、観光開発を目的とした事業にとって、景観に配慮したものにすることが求められていました。そこで、堤防を高くするのではなく、護岸を二重にすることで、鹿児島湾や桜島の眺望を楽しめる護岸にする工法が採用され、現在に至っています。



二重護岸

## 11. なつかしい宇宿

江戸期には福昌寺の寺領で田園が広がっていた宇宿地区は、田畑の広がる農村地域でした。また鹿児島湾にも接し、脇田川の河口には砂浜もありました。それだけに、米や野菜などの農作物の生産地、海水浴を楽しめる地として、住宅や店舗が多く建て込む現在とは異なる景色が広がっていました。

### ①上宇宿の十五夜行事

十五夜行事の1つで、昔は綱のためのかずらを山に取りに行くのが子どもたちの役割でした。綱かきしたものは、子どもたちによって地区を引きながら十五夜歌を歌いながら回っていましたが、コロナ禍で一時途絶え、復活していません。

### ② ちんちくちん

疱瘡踊りの一種とされ、女性たちが踊ります。太鼓と三味線に合わせて、太鼓をたたくのは男性で、三味線は女性。歌詞はなく、「ちんちくちん」とのはやしをつけて踊られます。かつては棒踊りとセットで踊られていました。

### ③ JR 宇宿駅の設置

昭和 58(1983)年から「宇宿通り会」が中心になって指宿枕崎線沿いに駅を開業するための活動を開始しました。鹿児島大学医学部などに協力をもらい、昭和 61 (1986) 年の宇宿駅開業につなげ、利用者の多い駅として地域にとって大切な駅が誕生しました。



JR 宇宿駅

### ④ 日光山（二軒茶屋公園）

現在二軒茶屋公園から二軒茶屋電停のある地域にかけては、大正元年に開業した路面電車の営業を行う鹿児島電気軌道株式会社が、乗車拡大のために行楽地を設置した場所です。日光東照宮のミニチュアが置かれていたことから「日光山」とも称されていました。その後、大正 5 (1916) 年に鴨池動物園を開園し、日光山の沿線公園としての役割は失われました。



日光山跡付近



【鴨池地区の主な未指定文化財リスト】

1. 鴨池地区の「かつて」	
1	谷山街道
2	鹿児島城下の処刑場
3	元文の板碑
4	二軒茶屋の地名
5	一之宮神社
6	茶屋馬場（脇田）
2. かつて「中村」がありました	
7	新川の河川改修
8	中村小学校の碑
9	中村公園
10	紅ガラス製造所跡
11	鹿児島高等農林学校跡
12	鹿児島県農事試験場跡
3. かつて「宇宿村」がありました	
13	福昌寺の寺領
14	蔵六軒
15	妙見神社
16	中の田の神
4. かつて「中郡宇村」がありました	
17	村の青年倶楽部
18	市合併記念碑
5. かつて「鹿児島海軍航空隊」がありました	
6. かつて「塩田」がありました	
19	与次郎ヶ浜
20	古田ヶ浜
7. 鴨池地区の「なつかしい」	
21	鴨池
22	鴨池動物園跡地
23	正一位稻荷神社
24	鴨池寺
8. なつかしい鴨池海岸・天保山海岸	
25	海濱院跡
26	鴨池川

2 7	鶴ヶ崎の地形
2 8	点在する温泉
2 9	騎射場の地名
3 0	脇田浜
9. なつかしい鴨池空港	
3 1	スカイマーケットの名前や展示写真
3 2	真砂本町や鴨池新町の区割
1 0. なつかしい与次郎ヶ浜	
3 3	二重護岸
1 1. なつかしい宇宿	
3 4	上宇宿の十五夜行事
3 5	ちんちくちん
3 6	JR 宇宿駅の設置
3 7	日光山